

対象校No. 635  
注4

学校コード F125310107360  
注3

設置年度 令和 6年度

計画の区分： 学部の学科の設置  
注1

**届出**

注2

びわこリハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部 言語聴覚療法学科

## 【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書 (改正前大学設置基準適用)

学校法人藍野大学  
令和7年5月1日現在

作成担当者	
担当部局(課)名	事務センター総務グループ
職名・氏名	センター長代理 <small>チョウダイリ</small> 岩崎康司 <small>イワサキコウジ</small>
電話番号	0748-20-1212
(夜間)	090-3871-8047
e-mail	soumuka@kanri-si.aino.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に  
( )書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、  
当該番号を記載してください。

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/mext\\_01087.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html)

4 対象校No.については、「【別紙】令和7年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、  
該当番号を記載してください。

# 目次

リハビリテーション学部

＜言語聴覚療法学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	15
4. 既設大学等の状況	16
5. 教員組織の状況	17
6. 附帯事項等に対する履行状況等	27
7. その他全般的事項	29

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人藍野大学

## (2) 大学名

びわこリハビリテーション専門職大学

## (3) 調査対象大学等の位置

〒527-0145

滋賀県東近江市北坂町967

〒527-0021

滋賀県東近江市八日市東浜町1-5

(注)・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。

・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(コヤマ ヒデオ) 小山 英夫 (令和6年4月)		
学長	(カクノ フミヒコ) 角野 文彦 (令和6年4月)		
学部長	(センジュウ ヒデアキ) 千住 秀明 (令和6年4月)		
学科長等	(タネムラ ジュン) 種村 純 (令和6年4月)		

(注)・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してくだ

(例) 令和6年度に報告済の内容 → (6)

令和7年度に報告する内容 → (7)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注)・当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。  
 ・なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、別ファイルにて提出してください。  
 ・様式は、令和3年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和7年度までの5年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が6年を越え、様式に変更が必要な場合にそれらのコースや専攻単位でも記載したものを、別途ご連絡ください。  
 ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。  
 ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
リハビリテーション学部 言語聴覚療法学科 言語聴覚療法士(専門職)	保健衛生学関係(リハビリテーション関係)	4年	20人	2年次 0人 3年次 0人 4年次 0人	80人		

- (注)・定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。  
 ・基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。  
 ・「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の2))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。  
 ・学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和○年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		春季入学以外の学期区分について	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	人 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	20 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	春季入学以外の入学時期と入学定員内訳	0.42倍	-	
志願者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	8 ( ) [ ]	( ) [ ]	12 ( ) [ ]				
受験者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	8 ( ) [ ]	( ) [ ]	12 ( ) [ ]				
合格者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	7 ( ) [ ]	( ) [ ]	12 ( ) [ ]				
B 入学者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	7 ( ) [ ]	( ) [ ]	12 ( ) [ ]				
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	35%	-	60%				

- (注)・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。  
 ・調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。  
 ・( )内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(( ))書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。  
 ・転入学生は記入しないでください。  
 ・[ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。  
 ・学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。  
 ・「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。  
 ・報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択するとともに、下欄に、入学時期と入学定員の内訳(予定を含む)を記載してください。(春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「-」を選択。)  
 ・「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和8年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。  
 ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。  
 ・「(5) - ② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	12	-	
	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	
	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	
2年次			-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	
			[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	
			( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	
3年次					-	-	-	-	-	-	-	-	
					[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	
					( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	
4年次							-	-	-	-	-	-	
							[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	
							( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	
計	-	-	-	-					7		17		
	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ - ]	[ ]	[ - ]	[ ]	
	( - )	( - )	( - )	( - )	( )	( )	( )	( )	( - )	( )	( - )	( )	

(注)・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ [ ]内には、留学生の状況について、**内数で**記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ ( )内には、留年者の状況について、**内数で**記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和2年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
令和4年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
令和5年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
令和6年度	5 人	2 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
			令和6年度	2 人	- 人	精神疾患による2名
令和7年度	17 人	0 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
			令和6年度	0 人	0 人	
			令和7年度	0 人	0 人	
合計		2 人		2 人	0 人	

- (注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。
  - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
  - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生、転科生も含めて記入してください。
  - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例) ・修学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(a+b)}} = \frac{2}{7} = \boxed{28.57} \%$$

【令和7年度】

$$\frac{\text{令和7年度の退学者数(a)}}{\text{令和7年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{17} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

## 2 授業科目の概要

<リハビリテーション学部 言語聴覚療法学科>

### (1) -① 授業科目表

#### 【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	学びの基盤	1前	2				1	1				
	コミュニケーション論	1前		2								兼1
	データサイエンス入門	1前	2			1						
	教育学	1前		2								兼1
	倫理学入門	1前		2								兼1
	心理学	1後	2									兼1
	社会学	1前		2								兼1
	地域の歴史と伝統文化	1前		2								兼1
	スポーツ実習【※】	1後	1									兼1
	生命科学	1前		2		1						
	バイオメカニクス入門	1前		2		1						
	統計学	2後	2			1						
	英語	1前	2									兼1
	医療英語	1後		2								兼1
	中国語	1後		2								兼1
小計(15科目)	-	11	18	0	2	1	1	0			兼9	
職業専門科目	解剖学	1後	2			1						
	生理学	1前	2			1						
	内科学	2後	2									兼1
	精神医学	2前	1									兼1
	小児科学	2前	1									兼1
	耳鼻咽喉科学	2後	2									兼1
	口腔外科・形成外科学	2前	2				1					
	脳・神経学	1後	2			1						
	音声言語医学	2前	2			1			1			
	臨床心理学	1前	2					1				
	生涯発達心理学	1後	2					1				
	社会福祉学	2前	2									兼1
	言語学	1前	2									兼1
	言語発達学	2後	1					1				
	音声学	1後	2									兼1
	音響学	1後	2									兼1
	リハビリテーション医学	1前	1			1						
	言語聴覚学総論	1前	2			2	1					
	言語聴覚診断学	1後	2			2	1					
	失語症Ⅰ	2前	2			2						
	失語症Ⅱ	2後	2			2						
	高次脳機能障害学	3前	2			2						
	言語発達障害学Ⅰ	2前	2					1				
	言語発達障害学Ⅱ	2後	2				1					
	吃音	2後	1			1			1			
	音声障害	2前	2			1			1			
	嚥下障害	3前	2			1			1			
	構音障害	2後	2				1		1			
	聴覚検査学	2後	1									兼1
	聴覚補償学Ⅰ	2後	1									兼2
	聴覚補償学Ⅱ	3前	1									兼2
	言語聴覚療法管理学	4後	2			2						
	言語聴覚診断学実習【※】	2前	2			2	1	1				
	失語・高次脳機能障害学実習Ⅰ【※】	3前	1			2						
	失語・高次脳機能障害学実習Ⅱ【※】	3後	1			2						
言語発達障害学実習Ⅰ【※】	3前	1				1	1					
言語発達障害学実習Ⅱ【※】	3後	1				1	1					
発声発語・嚥下障害学実習Ⅰ【※】	3前	1			1			1				
発声発語・嚥下障害学実習Ⅱ【※】	3後	1			1			1				
小児聴覚障害学実習【※】	3前	2									兼1	
成人聴覚障害学実習【※】	3前	2									兼1	
言語聴覚臨床実習Ⅰ【臨】	2後	2					1	1				

#### 新【令和7年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	学びの基盤	1前	2				1	1				兼2
	コミュニケーション論	1前		2								兼1
	データサイエンス入門	1前	2			1						
	教育学	1前		2								兼1
	倫理学入門	1前		2								兼1
	心理学	1後	2									兼1
	社会学	1前		2								兼1
	地域の歴史と伝統文化	1前		2								兼1
	スポーツ実習【※】	1通	1									兼1
	生命科学	1前		2		1						
	バイオメカニクス入門	1前		2								兼1
	統計学	2後	2					1				
	英語	1前	2									兼1
	医療英語	1後		2								兼1
	中国語	1後		2								兼1
小計(15科目)	-	10	19	0	2	1	1	0			兼12	
職業専門科目	解剖学	1後	2			1						
	生理学	1前	2			1						
	内科学	2前	2									兼1
	精神医学	2後	1									兼1
	小児科学	2前	2									兼1
	耳鼻咽喉科学	2後	2									兼2
	口腔外科・形成外科学	2前	2				1					
	脳・神経学	1後	2					1				
	救急援助論	2後	1									兼1
	音声言語医学	2前	2			1				1		
	臨床心理学	1前	2							1		
	生涯発達心理学	1後	2							1		
	認知・学習心理学	2前	1									兼1
	社会福祉学	2前	2									兼1
	言語学	1前	2									兼1
	言語発達学	2後	1							1		
	音声学	1後	2									兼1
	音響学	1後	2									兼1
	リハビリテーション医学	1前	1					1				
	言語聴覚学総論	1前	2			2	1					
	失語症	2前	2			2						
	高次脳機能障害学	3前	2			2						
	言語発達障害学Ⅰ	2前	2					1				
	言語発達障害学Ⅱ	2後	2							1		
	吃音	2後	1			1				1		
	音声障害	2前	2			1				1		
	嚥下障害	3前	2			1				1		
	構音障害	2後	2				1			1		
	聴覚検査学	2後	1									兼1
	聴覚補償学Ⅰ	2後	1									兼2
	聴覚補償学Ⅱ	3前	1									兼2
	言語聴覚療法管理学	3後	2					2				
	地域言語聴覚療法学	3後	2							1	1	
	言語聴覚評価学実習Ⅰ【※】	1後	2			2	1					
	言語聴覚評価学実習Ⅱ【※】	2前	2			2	1	1				
失語・高次脳機能障害学実習Ⅰ【※】	3前	1					2					
失語・高次脳機能障害学実習Ⅱ【※】	3後	1					2					
言語発達障害学実習Ⅰ【※】	3前	1						1	1			
言語発達障害学実習Ⅱ【※】	3後	1						1	1			
発声発語・嚥下障害学実習Ⅰ【※】	3前	1						1		1		
発声発語・嚥下障害学実習Ⅱ【※】	3後	1						1		1		
小児聴覚障害学実習【※】	3前	2						1			兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
職業専門科目	言語聴覚臨床実習Ⅱ【臨】	3後	6			1	1	1	1		
	言語聴覚臨床実習Ⅲ【臨】	4前	12			1	1	1	1		
	小計(44科目)	-	88	0	0	4	1	1	1		兼10
展開科目	地域言語聴覚療法学	4前	2					1	1		
	教育心理学	2前	2								兼1
	ボランティア論	1後	2								兼1
	生涯スポーツ論	1前	1								兼1
	地域共生論	3前	2								兼1
	教育支援論	2前	1								兼2
	ノーリフティングケア論	3前		1							兼1
	体力測定論	3後		1							兼3
	健康増進実践実習【※】	3後		1							兼3
	ウイメンズ・メンズヘルスケア論	3後		1							兼2
	メンタルヘルスマネジメント論	3後		1							兼1
	障がい者スポーツ論	2後		1							兼1
	障がい者スポーツ論実習【※】	3前		1							兼2
	障がい者企業就労論	3前		2							兼1
	マーケティング論	2後		2							兼1
	家族支援論	3後		1							兼1
	ICT活用論	2後		1							兼1
	小計(17科目)	-	10	13	0	0	0	1	1		兼17
総合科目	協働連携論総合実習【※】	4後	2				1	1	1		
	言語聴覚学総合実習Ⅰ【※】	4後	1					1	1		
	言語聴覚学総合実習Ⅱ【※】	4後	1			1	1				
	小計(3科目)	-	4			1	1	1	1		
	合計(79科目)	-	113	31	0	4	1	1	1		兼33
卒業要件及び履修方法											
<b>【卒業要件】</b> 次により、必修科目113単位、選択科目19単位以上を修得すること。 1.基礎科目20単位以上 (1)必修科目11単位 (2)選択科目9単位以上 2.職業専門科目88単位 (1)必修科目88単位 3.展開科目20単位 (1)必修科目10単位 (2)選択科目10単位 選択科目のうち、実習科目を1単位以上修得すること。 4.総合科目4単位 (1)必修科目4単位											

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
職業専門科目	成人聴覚障害学実習【※】	3前	2								
	言語聴覚臨床実習Ⅰ【臨】	2後	2					1	1		兼1
	言語聴覚臨床実習Ⅱ【臨】	3後	6			1	1	1	1		
	言語聴覚臨床実習Ⅲ【臨】	4前	12			1	1	1	1		
	小計(44科目)	-	91	0	0	4	1	1	1		兼14
展開科目	教育心理学	2前	2								兼1
	ボランティア論	1後	2								兼2
	生涯スポーツ論	1前	1								兼1
	地域共生論	3前	2								兼1
	教育支援論	2前	1								兼2
	ノーリフティングケア論	3前		1							兼1
	体力測定論	3後		1							兼3
	健康増進実践実習【※】	3後		1							兼3
	ウイメンズ・メンズヘルスケア論	3後		1							兼1
	メンタルヘルスマネジメント論	3前		1							兼1
	障がい者スポーツ論	2後		1							兼1
	障がい者スポーツ論実習【※】	3前		1							兼2
	障がい者企業就労論	3前		1							兼1
	マーケティング論	2後		2							兼1
	起業者論	3前		1							兼1
	家族支援論	3前		1							兼1
	ICT活用論	3前		1							兼1
コミュニケーション援助論	3前		1		2		1	1			
	小計(17科目)	-	8	14	0	2	0	1	1		兼19
総合科目	協働連携論総合実習【※】	4後	2				1	1	1		
	言語聴覚学総合実習Ⅰ【※】	4後	1					1	1		
	言語聴覚学総合実習Ⅱ【※】	4後	1			1	1				
	小計(3科目)	-	4			1	1	1	1		
	合計(79科目)	-	113	33	0	4	1	1	1		兼41
卒業要件及び履修方法											
<b>【卒業要件】</b> 次により、必修科目113単位、選択科目22単位以上を修得すること。 1.基礎科目20単位以上 (1)必修科目10単位 (2)選択科目10単位以上 2.職業専門科目91単位 (1)必修科目91単位 3.展開科目20単位以上 (1)必修科目8単位 (2)選択科目12単位以上 4.総合科目4単位 (1)必修科目4単位											

旧【令和7年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	学びの基盤	1前	2				1	1				兼2
	コミュニケーション論	1前		2								兼1
	データサイエンス入門	1前	2			1						
	教育学	1前		2								兼1
	倫理学入門	1前		2								兼1
	心理学	1後	2									兼1
	社会学	1前		2								兼1
	地域の歴史と伝統文化	1前		2								兼1
	スポーツ実習【※】	1通	1									兼1
	生命科学	1前		2								兼1
	バイオメカニクス入門	1前		2								兼1
	統計学	2後	2			1						
	英語	1前	2									兼1
	医療英語	1後		2								兼1
	中国語	1後		2								兼1
小計(15科目)	-		11	18	0	2	1	1	0			兼12
職業専門科目	解剖学	1後	2			1						
	生理学	1前	2			1						
	内科学	2前	2									兼1
	精神医学	2後	1									兼1
	小児科学	2前	1									兼1
	耳鼻咽喉科学	2後	2									兼2
	口腔外科・形成外科学	2前	2				1					
	脳・神経学	1後	2			1						
	音声言語医学	2前	2			1			1			
	臨床心理学	1前	2					1				
	生涯発達心理学	1後	2					1				
	社会福祉学	2前	2									兼1
	言語学	1前	2									兼1
	言語発達学	2後	1					1				
	音声学	1後	2									兼1
	音響学	1後	2									兼1
	リハビリテーション医学	1前	1			1						兼2
	言語聴覚学総論	1前	2			2	1					
	言語聴覚診断学	1後	2			2	1					
	失語症Ⅰ	2前	2			2						
	失語症Ⅱ	2後	2			2						
高次脳機能障害学	3前	2			2							
言語発達障害学Ⅰ	2前	2				1						
言語発達障害学Ⅱ	2後	2					1					
吃音	2後	1			1			1				
音声障害	2前	2			1			1				
嚥下障害	3前	2			1			1				
構音障害	2後	2				1		1				
聴覚検査学	2後	1									兼1	
聴覚補償学Ⅰ	2後	1									兼2	
聴覚補償学Ⅱ	3前	1									兼2	
言語聴覚療法管理学	3後	2			2							
言語聴覚診断学実習【※】	2前	2			2	1	1				兼1	
失語・高次脳機能障害学実習Ⅰ【※】	3前	1			2							
失語・高次脳機能障害学実習Ⅱ【※】	3後	1			2							
言語発達障害学実習Ⅰ【※】	3前	1				1	1					
言語発達障害学実習Ⅱ【※】	3後	1				1	1					
発声発語・嚥下障害学実習Ⅰ【※】	3前	1			1			1				
発声発語・嚥下障害学実習Ⅱ【※】	3後	1			1			1				
小児聴覚障害学実習【※】	3前	2									兼1	
成人聴覚障害学実習【※】	3前	2									兼1	
言語聴覚臨床実習Ⅰ【臨】	2後	2					1	1				

旧【令和6年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	学びの基盤	1前	2				1	1				兼2
	コミュニケーション論	1前		2								兼1
	データサイエンス入門	1前	2			1						
	教育学	1前		2								兼1
	倫理学入門	1前		2								兼1
	心理学	1後	2									兼1
	社会学	1前		2								兼1
	地域の歴史と伝統文化	1前		2								兼1
	スポーツ実習【※】	1後	1									兼1
	生命科学	1前		2				1				兼1
	バイオメカニクス入門	1前		2								兼1
	統計学	2後	2					1				
	英語	1前	2									兼1
	医療英語	1後		2								兼1
	中国語	1後		2								兼1
小計(15科目)	-		11	18	0	2	1	1	0			兼12
職業専門科目	解剖学	1後	2			1						
	生理学	1前	2			1						
	内科学	2後	2									兼1
	精神医学	2前	1									兼1
	小児科学	2前	1									兼1
	耳鼻咽喉科学	2後	2									兼1
	口腔外科・形成外科学	2前	2				1					
	脳・神経学	1後	2					1				
	音声言語医学	2前	2				1			1		
	臨床心理学	1前	2						1			
	生涯発達心理学	1後	2						1			
	社会福祉学	2前	2									兼1
	言語学	1前	2									兼1
	言語発達学	2後	1						1			
	音声学	1後	2									兼1
	音響学	1後	2									兼1
	リハビリテーション医学	1前	1			1						兼2
	言語聴覚学総論	1前	2			2	1					
	言語聴覚診断学	1後	2			2	1					
	失語症Ⅰ	2前	2			2						
	失語症Ⅱ	2後	2			2						
高次脳機能障害学	3前	2			2							
言語発達障害学Ⅰ	2前	2						1				
言語発達障害学Ⅱ	2後	2					1					
吃音	2後	1			1				1			
音声障害	2前	2			1			1				
嚥下障害	3前	2			1			1				
構音障害	2後	2				1		1				
聴覚検査学	2後	1									兼1	
聴覚補償学Ⅰ	2後	1									兼2	
聴覚補償学Ⅱ	3前	1									兼2	
言語聴覚療法管理学	4後	2			2							
言語聴覚診断学実習【※】	2前	2			2	1	1					
失語・高次脳機能障害学実習Ⅰ【※】	3前	1			2							
失語・高次脳機能障害学実習Ⅱ【※】	3後	1			2							
言語発達障害学実習Ⅰ【※】	3前	1					1	1				
言語発達障害学実習Ⅱ【※】	3後	1					1	1				
発声発語・嚥下障害学実習Ⅰ【※】	3前	1			1				1			
発声発語・嚥下障害学実習Ⅱ【※】	3後	1			1			1				
小児聴覚障害学実習【※】	3前	2									兼1	
成人聴覚障害学実習【※】	3前	2									兼1	
言語聴覚臨床実習Ⅰ【臨】	2後	2						1	1			

授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
		必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
言語聴覚臨床実習Ⅱ【臨】	3後	6			1	1	1	1		
言語聴覚臨床実習Ⅲ【臨】	4前	12			1	1	1	1		
小計(44科目)	-	88	0	0	4	1	1	1		兼14
展開科目	地域言語聴覚療法学	3後	2				1	1		
	教育心理学	2前	2							兼1
	ボランティア論	1後	2							兼2
	生涯スポーツ論	1前	1							兼1
	地域共生論	3前	2							兼1
	教育支援論	2前	1							兼2
	ノーリフティングケア論	3前		1						兼1
	体力測定論	3後		1						兼3
	健康増進実践実習【※】	3後		1						兼3
	ウイメンズ・メンズヘルスケア論	3後		1						兼1
	メンタルヘルスマネジメント論	3前		1						兼1
	障がい者スポーツ論	2後		1						兼1
	障がい者スポーツ論実習【※】	3前		1						兼2
	障がい者企業就労論	3前		2						兼1
	マーケティング論	2後		2						兼1
家族支援論	3前		1						兼1	
ICT活用論	3前		1						兼1	
小計(17科目)	-	10	13	0	0	0	1	1		兼17
総合科目	協働連携論総合実習【※】	4後	2			1	1	1		
	言語聴覚学総合実習Ⅰ【※】	4後	1				1	1		
	言語聴覚学総合実習Ⅱ【※】	4後	1		1	1				
	小計(3科目)	-			1	1	1	1		
合計(79科目)	-	113	31	0	4	1	1	1		兼39

卒業要件及び履修方法

**【卒業要件】**  
 次により、必修科目113単位、選択科目19単位以上を修得すること。  
 1.基礎科目20単位以上  
 (1)必修科目11単位  
 (2)選択科目9単位以上  
 2.職業専門科目88単位  
 (1)必修科目88単位  
 3.展開科目20単位  
 (1)必修科目10単位  
 (2)選択科目10単位  
 選択科目のうち、実習科目を1単位以上修得すること。  
 4.総合科目4単位  
 (1)必修科目4単位

授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
		必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
言語聴覚臨床実習Ⅱ【臨】	3後	6			1	1	1	1		
言語聴覚臨床実習Ⅲ【臨】	4前	12			1	1	1	1		
小計(44科目)	-	88	0	0	4	1	1	1		兼12
展開科目	地域言語聴覚療法学	4前	2					1	1	
	教育心理学	2前	2							兼1
	ボランティア論	1後	2							兼1
	生涯スポーツ論	1前	1							兼1
	地域共生論	3前	2							兼1
	教育支援論	2前	1							兼2
	ノーリフティングケア論	2後		1						兼1
	体力測定論	3後		1						兼3
	健康増進実践実習【※】	3後		1						兼3
	ウイメンズ・メンズヘルスケア論	3後		1						兼1
	メンタルヘルスマネジメント論	3後		1						兼1
	障がい者スポーツ論	2後		1						兼1
	障がい者スポーツ論実習【※】	3前		1						兼2
	障がい者企業就労論	3前		2						兼1
	マーケティング論	2後		2						兼1
家族支援論	3後		1						兼1	
ICT活用論	2後		1						兼1	
小計(17科目)	-	10	13	0	0	0	1	1		兼16
総合科目	協働連携論総合実習【※】	4後	2			1	1	1		
	言語聴覚学総合実習Ⅰ【※】	4後	1				1	1		
	言語聴覚学総合実習Ⅱ【※】	4後	1		1	1				
	小計(3科目)	-			1	1	1	1		
合計(79科目)	-	113	31	0	4	1	1	1		兼34

卒業要件及び履修方法

**【卒業要件】**  
 次により、必修科目113単位、選択科目19単位以上を修得すること。  
 1.基礎科目20単位以上  
 (1)必修科目11単位  
 (2)選択科目9単位以上  
 2.職業専門科目88単位  
 (1)必修科目88単位  
 3.展開科目20単位  
 (1)必修科目10単位  
 (2)選択科目10単位  
 選択科目のうち、実習科目を1単位以上修得すること。  
 4.総合科目4単位  
 (1)必修科目4単位

(注)・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字の赤字**として記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
- ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
- ・ 不要な年度(令和6年度開設であれば令和5年度以前)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
- ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には【※】、「臨地実務実習」による授業科目には【臨】、「連携実務演習」による授業科目には【連】を授業科目の名称の右側に記入してください。
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。(例:記載順)【認可時又は届出時】→【令和7年度】(新)→【令和6年度】(新)→【令和5年度】→【令和4年度】→【令和7年度】(旧)→【令和6年度】(旧)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

**【令和6年度】**

- ・全学科共通科目とし、他学科と合同の講義としたため「学びの基盤」の一部に兼任を配置したため、「准教授1」「講師1」を「准教授1」「講師1」「兼任2」と変更。
- ・全学科共通科目とし、他学科と合同の講義としたため「バイオメカニクス入門」を「教授1」から、他学科でバイオメカニクス入門を担当する教員による講義としたため「兼任1」に変更。
- ・講義内容の専門性を高めるため、「リハビリテーション医学」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授1」「兼任2」に変更。
- ・担当予定であった兼任教員の退職により、「ウイメンズ・メンズヘルスケア論」を「兼任2」から「兼任1」に変更。

**【令和7年度】**

**【新カリキュラム】**

- ・「言語発達障害学Ⅰ」の担当を専門性を鑑み「准教授1」から「講師1」に変更。
- ・「言語発達障害学Ⅱ」の担当を専門性を鑑み「講師1」から「准教授1」に変更。

**【旧カリキュラム】**

- ・「言語発達障害学Ⅰ」の担当を専門性を鑑み「准教授1」から「講師1」に変更。
- ・「言語発達障害学Ⅱ」の担当を専門性を鑑み「講師1」から「准教授1」に変更。
- ・実習地確保等の理由により実情に合わせ「スポーツ実習」の配当年次を「1前」を「1通」に変更。
- ・設置学科全てにおいてCAP 制や共通開講の効率化等を考慮し次の科目について配当年次・時期を変更。  
「内科学」「精神医学」「言語聴覚療法管理学」「地域言語聴覚療法学」「ノーリフティングケア論」「メンタルヘルスマネジメント論」  
「家族支援論」「ICT活用論」
- ・講義内容の専門性を高めるため、次の科目について「兼任」を1名ずつ追加。  
「耳鼻咽喉科学」「リハビリテーション医学」「言語聴覚診断学実習」「ボランティア論」

- (注)・ 2 (1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
  - ・ 不要な年度（令和6年度開設であれば令和5年度以前）の表は適宜削除してください。
  - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
59 科目	20 科目	0 科目	79 科目	59 科目 [ ]	23 科目 [ 3 ]	0 科目 [ ]	82 科目 [ ]	(記入例：指定規則の場合) 【旧カリキュラム】 設置時の計画：必修59科目、選択20科目、自由0科目、 計79科目 変更状況：必修59科目、選択20科目、自由0科目、 計79科目

- (注)・未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

(注)・配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。

なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

- ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
- ・教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
- ・専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
- ・該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

(注)・設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。

なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

- ・教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
- ・専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
- ・該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

(注)・授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{79} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	その他は駐車場。			
	校舎敷地	14533.72㎡	0㎡	0㎡	14533.72㎡				
	運動場用地	0㎡	0㎡	0㎡	0㎡				
	小 計	14533.72㎡	0㎡	0㎡	14533.72㎡				
	そ の 他	4007.00㎡	0㎡	0㎡	4007.00㎡				
	合 計	18540.72㎡	0㎡	0㎡	18540.72㎡				
(2) 校 舎	専 用	8159.68㎡	㎡	㎡	8159.68㎡				
	( 8159.68 ㎡)	( ㎡)	( ㎡)	( 8159.68 ㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	18室	1室	16室	1室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	リハビリテーション学部言語聴覚療法学科			6 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	学科単位での特定不能のため、大学全体の数 新規購入をした図書があるため増加している。外国書は退職した教員が次の所属先で研究を継続するために返還したため減っている。学術雑誌は順次、電子媒体に置き換えを図っているため、減少している。視聴覚資料は破損等、電子媒体への移行による減少、機器備品は新規購入があり増加している(6) 図書、視聴覚資料、機械・機器は新規購入分、電子ジャーナルは使用実績を基に2種削減(7)	
	リハビリテーション学部言語聴覚療法学科	19,123 [1,015]  (19,154 [1,077]) <del>(17,575 [1,005])</del> (17,548 [1,010])	32 [ 0 ] 32 [ 3 ]  (27 [ 0 ] ) (31 [ 3 ] )	1 [ 0 ] 3 [ 2 ]  (1 [ 0 ] ) <del>(3 [ 2 ] )</del>	205  ( 190 ) <del>( 189 )</del> ( 205 )	2880  ( 2698 ) <del>( 2687 )</del> ( 2670 )	48  ( 46 )		
	計	19,123 [1,015]  (19,154 [1,077]) <del>(17,575 [1,005])</del> (17,548 [1,010])	32 [ 0 ] 32 [ 3 ]  (27 [ 0 ] ) (31 [ 3 ] )	(1 [ 0 ] ) <del>(3 [ 2 ] )</del>  (1 [ 0 ] ) <del>(3 [ 2 ] )</del>	205  ( 190 ) <del>( 189 )</del> ( 205 )	2880  ( 2698 ) <del>( 2687 )</del> ( 2670 )	48  ( 46 )		
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数				
	374.96㎡		102		31000				
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要						
	0㎡ なし								
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当り研究費等	240千円	240千円	図書購入費	5,800千円	3,800千円	3,800千円	
		共同研究費等	千円	千円	設備購入費	30,000千円	8,000千円	5,000千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1450千円	1250千円	1250千円	1250千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		寄付金、補助金等							

- (注)・設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。  
 (複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はA C対象学部等の数値を記入してください。)  
 ・運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。  
 ・「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の5月1日現在の数値を記入してください。  
 ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(6)」を「備考」に赤字で記入してください。  
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。  
 ・校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。  
 ・国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学等の名称	びわこリハビリテーション専門職大学										収容定員充足率0.7倍以下の学科数	2	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	0
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考			
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度					
リハビリテーション学部	4	120	-	480	-	-	-	-	令和2	滋賀県東近江市北坂町967 滋賀県東近江市八日市東浜町1-5				
理学療法学科	4	70	-	300	理学療法学士(専門職)	0.85倍	-	-	令和2	同上	令和6年度から入学定員変更(80→70)			
作業療法学科	4	30	-	140	作業療法学士(専門職)	0.54倍	-	-	令和2	同上	令和6年度から入学定員変更(40→30)			
言語聴覚療法学科	4	20	-	40	言語聴覚療法学士(専門職)	0.42倍	-	-	令和6	同上				
大学全体	4	120	-	480	-	-	-	-	-	-				

(注)・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）について、既に設置している学部等（短期大学、高等専門学校にあっては学科等）の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。（大学院、専攻科及び別科を除く）。  
 なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。  
 ・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「-」とした上で、「非表示」設定としてください。  
 ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。  
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。  
 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。  
 ・本年度A Cの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。  
 ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。  
 開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。  
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和8年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。  
 ・「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。  
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を越える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。  
 ・「収容定員充足率（控除後含む）」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。  
 また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。  
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。  
 ・「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。  
 詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

5 教員組織の状況

<リハビリテーション学部 言語聴覚療法学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】			【令和6年度】			【令和7年度】		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	種村 純 (71) <令和6年4月> 博士(心理学)	専	教授	種村 純 (71) <令和6年4月> 博士(心理学)	専	教授	種村 純 (72) <令和6年4月> 博士(心理学)
		リハビリテーション医学 言語聴覚学総論 言語聴覚診断学 失語症Ⅰ 失語症Ⅱ 高次脳機能障害学 言語聴覚療法管理学 言語聴覚診断学実習 失語・高次脳機能障害学実習Ⅰ 失語・高次脳機能障害学実習Ⅱ			リハビリテーション医学 言語聴覚学総論 言語聴覚診断学 失語症Ⅰ 失語症Ⅱ 高次脳機能障害学 言語聴覚療法管理学 言語聴覚診断学実習 失語・高次脳機能障害学実習Ⅰ 失語・高次脳機能障害学実習Ⅱ			【新カリキュラム】 リハビリテーション医学 言語聴覚学総論 失語症 高次脳機能障害学 言語聴覚療法管理学 言語聴覚評価学実習Ⅰ 言語聴覚評価学実習Ⅱ 失語・高次脳機能障害学実習Ⅰ 失語・高次脳機能障害学実習Ⅱ  【旧カリキュラム】 リハビリテーション医学 言語聴覚学総論 言語聴覚診断学 失語症Ⅰ 失語症Ⅱ 高次脳機能障害学 言語聴覚療法管理学 言語聴覚診断学実習 失語・高次脳機能障害学実習Ⅰ 失語・高次脳機能障害学実習Ⅱ
専	教授	兼清 健志 (45) <令和6年4月> 博士(薬学)	専	教授	兼清 健志 (45) <令和6年4月> 博士(薬学)	専	教授	兼清 健志 (46) <令和6年4月> 博士(薬学)
		データサイエンス入門 バイオメカニクス入門 統計学 生理学			データサイエンス入門 統計学 生理学			【新カリキュラム】 データサイエンス入門 統計学 生理学  【旧カリキュラム】 データサイエンス入門 統計学 生理学
専	教授	中野 法彦 (55) <令和6年4月> 博士(医学)	専	教授	中野 法彦 (55) <令和6年4月> 博士(医学)	専	教授	中野 法彦 (56) <令和6年4月> 博士(医学)
		解剖学 脳・神経学			解剖学 脳・神経学			【新カリキュラム】 解剖学 脳・神経学  【旧カリキュラム】 解剖学 脳・神経学
実専	講師	加藤 陽子 (55) <令和6年4月> 博士(小児発達学)	実専	講師	加藤 陽子 (55) <令和6年4月> 博士(小児発達学)	実専	講師	加藤 陽子 (56) <令和6年4月> 博士(小児発達学)
		学びの基盤 臨床心理学 生涯発達心理学 言語発達学 言語発達障害学Ⅰ 言語聴覚診断学実習 言語発達障害学実習Ⅰ 言語発達障害学実習Ⅱ 言語聴覚臨床実習Ⅰ 言語聴覚臨床実習Ⅱ 言語聴覚臨床実習Ⅲ 地域言語聴覚療法 協働連携総合実習 言語聴覚学総合実習Ⅰ			学びの基盤 臨床心理学 生涯発達心理学 言語発達学 言語発達障害学Ⅰ 言語聴覚診断学実習 言語発達障害学実習Ⅰ 言語発達障害学実習Ⅱ 言語聴覚臨床実習Ⅰ 言語聴覚臨床実習Ⅱ 言語聴覚臨床実習Ⅲ 地域言語聴覚療法 協働連携総合実習 言語聴覚学総合実習Ⅰ			【新カリキュラム】 学びの基盤 臨床心理学 生涯発達心理学 言語発達学 言語発達障害学Ⅱ 言語聴覚評価学実習Ⅱ 言語聴覚診断学実習 言語発達障害学実習Ⅰ 言語発達障害学実習Ⅱ 言語聴覚臨床実習Ⅰ 言語聴覚臨床実習Ⅱ 言語聴覚臨床実習Ⅲ 地域言語聴覚療法 協働連携総合実習Ⅰ  【旧カリキュラム】 学びの基盤 臨床心理学 生涯発達心理学 言語発達学 言語発達障害学Ⅱ 言語聴覚診断学実習 言語発達障害学実習Ⅰ 言語発達障害学実習Ⅱ 言語聴覚臨床実習Ⅰ 言語聴覚臨床実習Ⅱ 言語聴覚臨床実習Ⅲ 地域言語聴覚療法 協働連携総合実習 言語聴覚学総合実習Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
実専	助教	岩本 徹 (36) <令和6年4月>	実専	助教	岩本 徹 (36) <令和6年4月>	実専	助教	岩本 徹 (37) <令和6年4月>
		音声言語医学 吃音 音声障害 嚥下障害 構音障害 発声発語・嚥下障害学実習Ⅰ 発声発語・嚥下障害学実習Ⅱ 言語聴覚臨床実習Ⅰ 言語聴覚臨床実習Ⅱ 言語聴覚臨床実習Ⅲ 地域言語聴覚療法学 協働連携論総合実習 言語聴覚学総合実習Ⅰ			音声言語医学 吃音 音声障害 嚥下障害 構音障害 発声発語・嚥下障害学実習Ⅰ 発声発語・嚥下障害学実習Ⅱ 言語聴覚臨床実習Ⅰ 言語聴覚臨床実習Ⅱ 言語聴覚臨床実習Ⅲ 地域言語聴覚療法学 協働連携論総合実習 言語聴覚学総合実習Ⅰ			【新カリキュラム】 音声言語医学 吃音 音声障害 嚥下障害 構音障害 発声発語・嚥下障害学実習Ⅰ 発声発語・嚥下障害学実習Ⅱ 言語聴覚臨床実習Ⅰ 言語聴覚臨床実習Ⅱ 言語聴覚臨床実習Ⅲ 地域言語聴覚療法学 協働連携論 言語聴覚学総合実習Ⅰ  【旧カリキュラム】 音声言語医学 吃音 音声障害 嚥下障害 構音障害 発声発語・嚥下障害学実習Ⅰ 発声発語・嚥下障害学実習Ⅱ 言語聴覚臨床実習Ⅰ 言語聴覚臨床実習Ⅱ 言語聴覚臨床実習Ⅲ 地域言語聴覚療法学 協働連携論総合実習 言語聴覚学総合実習Ⅰ
実(研)	教授	宮崎 泰広 (46) <令和6年4月> 博士(感覚矯正学)	実(研)	教授	宮崎 泰広 (46) <令和6年4月> 博士(感覚矯正学)	実(研)	教授	宮崎 泰広 (47) <令和6年4月> 博士(感覚矯正学)
		音声言語医学 言語聴覚学総論 言語聴覚診断学 失語症Ⅰ 失語症Ⅱ 高次脳機能障害学 発声発語・嚥下障害学実習Ⅰ 発声発語・嚥下障害学実習Ⅱ 吃音 音声障害 嚥下障害 言語聴覚療法管理学的 言語聴覚診断学実習 失語・高次脳機能障害学実習Ⅰ 失語・高次脳機能障害学実習Ⅱ 言語聴覚臨床実習Ⅱ 言語聴覚臨床実習Ⅲ 言語聴覚学総合実習Ⅱ			音声言語医学 言語聴覚学総論 言語聴覚診断学 失語症Ⅰ 失語症Ⅱ 高次脳機能障害学 発声発語・嚥下障害学実習Ⅰ 発声発語・嚥下障害学実習Ⅱ 吃音 音声障害 嚥下障害 言語聴覚療法管理学的 言語聴覚診断学実習 失語・高次脳機能障害学実習Ⅰ 失語・高次脳機能障害学実習Ⅱ 言語聴覚臨床実習Ⅱ 言語聴覚臨床実習Ⅲ 言語聴覚学総合実習Ⅱ			【新カリキュラム】 音声言語医学 言語聴覚学総論 失語症 高次脳機能障害学 発声発語・嚥下障害学実習Ⅰ 発声発語・嚥下障害学実習Ⅱ 吃音 音声障害 嚥下障害 言語聴覚療法管理学的 言語聴覚評価学実習Ⅰ 言語聴覚評価学実習Ⅱ 失語・高次脳機能障害学実習Ⅰ 失語・高次脳機能障害学実習Ⅱ 言語聴覚臨床実習Ⅰ 言語聴覚臨床実習Ⅱ 言語聴覚臨床実習Ⅲ 言語聴覚学総合実習Ⅱ  【旧カリキュラム】 音声言語医学 言語聴覚学総論 言語聴覚診断学 失語症Ⅰ 失語症Ⅱ 高次脳機能障害学 発声発語・嚥下障害学実習Ⅰ 発声発語・嚥下障害学実習Ⅱ 吃音 音声障害 嚥下障害 言語聴覚療法管理学的 言語聴覚診断学実習 失語・高次脳機能障害学実習Ⅰ 失語・高次脳機能障害学実習Ⅱ 言語聴覚臨床実習Ⅱ 言語聴覚臨床実習Ⅲ 言語聴覚学総合実習Ⅱ
実(研)	准教授	小島 麻木 (46) <令和6年4月> 博士(スポーツ健康科学)	実(研)	准教授	小島 麻木 (46) <令和6年4月> 博士(スポーツ健康科学)	実(研)	准教授	小島 麻木 (46) <令和6年4月> 博士(スポーツ健康科学)
		学びの基盤 口腔外科・形成外科学 言語聴覚学総論 言語聴覚診断学 言語発達障害学Ⅱ 構音障害 言語聴覚診断学実習 言語発達障害学実習Ⅰ 言語発達障害学実習Ⅱ 言語聴覚臨床実習Ⅱ 言語聴覚臨床実習Ⅲ 協働連携論総合実習 言語聴覚学総合実習Ⅱ			学びの基盤 口腔外科・形成外科学 言語聴覚学総論 言語聴覚診断学 言語発達障害学Ⅱ 構音障害 言語聴覚診断学実習 言語発達障害学実習Ⅰ 言語発達障害学実習Ⅱ 言語聴覚臨床実習Ⅱ 言語聴覚臨床実習Ⅲ 協働連携論総合実習 言語聴覚学総合実習Ⅱ			【新カリキュラム】 学びの基盤 口腔外科・形成外科学 言語聴覚学総論 <b>言語発達障害学Ⅰ</b> 構音障害 言語聴覚評価学実習Ⅰ 言語聴覚評価学実習Ⅱ 言語発達障害学実習Ⅰ 言語発達障害学実習Ⅱ 言語聴覚臨床実習Ⅱ 言語聴覚臨床実習Ⅲ 協働連携論 言語聴覚学総合実習Ⅱ  【旧カリキュラム】 学びの基盤 口腔外科・形成外科学 言語聴覚学総論 言語聴覚診断学 <b>言語発達障害学Ⅰ</b> 構音障害 言語聴覚診断学実習 言語発達障害学実習Ⅰ 言語発達障害学実習Ⅱ 言語聴覚臨床実習Ⅱ 言語聴覚臨床実習Ⅲ 協働連携論総合実習 言語聴覚学総合実習Ⅱ
兼任	教授	篠田 恵一 (73) <令和7年4月> 医学博士						
		内科学						

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	埜田 和史 (70) <令和7年4月> 医学博士	兼任	教授	埜田 和史 (69) <令和7年4月> 医学博士	兼任	教授	埜田 和史 (70) <令和7年4月> 医学博士
		ノーリフティングケア論 障がい者企業就労論			ノーリフティングケア論 障がい者企業就労論			【新カリキュラム】 ノーリフティングケア論 障がい者企業就労論 【旧カリキュラム】 ノーリフティングケア論 障がい者企業就労論
兼任	教授	分木 ひとみ (68) <令和8年4月> 博士(学術)	兼任	教授	分木 ひとみ (66) <令和6年4月> 博士(学術)	兼任		
		体力測定論 健康増進実践実習			学びの基盤 体力測定論 健康増進実践実習			
兼任	教授	山内 正雄 (69) <令和8年4月> 修士(学術)	兼任	教授	山内 正雄 (67) <令和6年4月> 修士(学術)	兼任	教授	山内 正雄 (68) <令和6年4月> 修士(学術)
		ウイメンズ・メンズヘルスケア論			リハビリテーション医学 ウイメンズ・メンズヘルス ケア論			【新カリキュラム】 ウイメンズ・メンズヘルスケア 論 【旧カリキュラム】 リハビリテーション医学 ウイメンズ・メンズヘルスケア 論
兼任	准教授	大西 満 (58) <令和7年4月> 修士(保健学)						
		ICT活用論						
兼任	准教授	安田 孝志 (51) <令和7年4月> 修士(スポーツ科学)	兼任	准教授	安田 孝志 (50) <令和7年4月> 修士(スポーツ科学)	兼任	准教授	安田 孝志 (51) <令和7年4月> 修士(スポーツ科学)
		障がい者スポーツ論 障がい者スポーツ論実習			障がい者スポーツ論 障がい者スポーツ論実習			【新カリキュラム】 障がい者スポーツ論 障がい者スポーツ論実習 【旧カリキュラム】 障がい者スポーツ論 障がい者スポーツ論実習
兼任			兼任	講師	安部 征哉 (52) <令和6年4月> 修士(学術)	兼任	講師	安部 征哉 (53) <令和6年4月> 修士(学術)
					学びの基盤			【新カリキュラム】 学びの基盤 【旧カリキュラム】 学びの基盤
兼任	講師	池谷 雅江 (54) <令和8年4月> 修士(社会福祉学)	兼任	講師	池谷 雅江 (52) <令和8年4月> 修士(社会福祉学)	兼任	講師	池谷 雅江 (53) <令和8年4月> 修士(社会福祉学)
		体力測定論 健康増進実践実習 障がい者スポーツ論実習			体力測定論 健康増進実践実習 障がい者スポーツ論実習			【新カリキュラム】 体力測定論 健康増進実践実習 障がい者スポーツ論実習 【旧カリキュラム】 体力測定論 健康増進実践実習 障がい者スポーツ論実習
兼任	講師	里中 綾子 (51) <令和8年4月> 博士(リハビリテーション療法 学)						
		ウイメンズ・メンズヘルスケア 論						
兼任	講師	鈴木 美香 (45) <令和8年4月> 修士(学術)	兼任	講師	鈴木 美香 (43) <令和8年4月> 修士(学術)	兼任	講師	鈴木 美香 (44) <令和8年4月> 修士(学術)
		体力測定論 健康増進実践実習			体力測定論 健康増進実践実習			【新カリキュラム】 体力測定論 健康増進実践実習 【旧カリキュラム】 体力測定論 健康増進実践実習
兼任	助教	木岡 和実 (55) <令和8年4月> 学士(教養)	兼任	助教	木岡 和実 (53) <令和8年4月> 学士(教養)	兼任		
		家族支援論			家族支援論			
兼任	助教	佐藤 隆彦 (39) <令和6年4月> 博士(スポーツ科学)	兼任	助教	佐藤 隆彦 (39) <令和6年4月> 博士(スポーツ科学)	兼任	助教	佐藤 隆彦 (40) <令和6年4月> 博士(スポーツ科学)
		スポーツ論実習 生涯スポーツ論			バイオメカニクス入門 スポーツ論実習 生涯スポーツ論			【新カリキュラム】 学びの基盤 バイオメカニクス入門 スポーツ論実習 生涯スポーツ論 【旧カリキュラム】 バイオメカニクス入門 スポーツ論実習 生涯スポーツ論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
			兼任	助教	寺井 淳 (38) <令和7年4月> 修士(学術)	兼任	助教	寺井 淳 (39) <令和7年4月> 修士(学術)
					ICT活用論			ICT活用論
			兼任	助教	杉本 久美子 (42) <令和6年4月> 修士(社会福祉学)	兼任	助教	杉本 久美子 (43) <令和6年4月> 修士(社会福祉学)
					リハビリテーション医学			【新カリキュラム】 家族支援論 【旧カリキュラム】 リハビリテーション医学 家族支援論
兼任	講師	能登谷 晶子 (72) <令和7年4月> 医学博士	兼任	講師	能登谷 晶子 (73) <令和7年4月> 医学博士	兼任	講師	能登谷 晶子 (74) <令和7年4月> 医学博士
		聴覚補償学Ⅰ 聴覚補償学Ⅱ 小児聴覚障害学実習			聴覚補償学Ⅰ 聴覚補償学Ⅱ 小児聴覚障害学実習			【新カリキュラム】 聴覚補償学Ⅰ 聴覚補償学Ⅱ 小児聴覚障害学実習 【旧カリキュラム】 聴覚補償学Ⅰ 聴覚補償学Ⅱ 小児聴覚障害学実習 言語聴覚診断学実習
兼任	講師	松平 登志正 (75) <令和7年4月> 医学博士	兼任	講師	松平 登志正 (75) <令和7年4月> 医学博士	兼任	講師	松平 登志正 (76) <令和7年4月> 医学博士
		聴覚検査学 聴覚補償学Ⅰ 聴覚補償学Ⅱ 成人聴覚障害学実習			聴覚検査学 聴覚補償学Ⅰ 聴覚補償学Ⅱ 成人聴覚障害学実習			【新カリキュラム】 聴覚検査学 聴覚補償学Ⅰ 聴覚補償学Ⅱ 成人聴覚障害学実習 【旧カリキュラム】 聴覚検査学 聴覚補償学Ⅰ 聴覚補償学Ⅱ 成人聴覚障害学実習
兼任	講師	田浦 晶子 (56) <令和7年4月> 博士(医学)	兼任	講師	田浦 晶子 (56) <令和7年4月> 博士(医学)	兼任	講師	田浦 晶子 (57) <令和7年4月> 博士(医学)
		耳鼻咽喉科学			耳鼻咽喉科学			【新カリキュラム】 耳鼻咽喉科学 【旧カリキュラム】 耳鼻咽喉科学
兼任	講師	脇坂 美和子 (56) <令和6年4月> Master of Arts	兼任	講師	脇坂 美和子 (57) <令和6年4月> Master of Arts	兼任	講師	脇坂 美和子 (58) <令和6年4月> Master of Arts
		英語 医療英語 言語学			英語 医療英語 言語学			【新カリキュラム】 英語 医療英語 言語学 【旧カリキュラム】 英語 医療英語 言語学
兼任	講師	家村 雅子 (58) <令和6年4月> 修士(言語文化学)	兼任	講師	家村 雅子 (58) <令和6年4月> 修士(言語文化学)	兼任	講師	家村 雅子 (59) <令和6年4月> 修士(言語文化学)
		音声学			音声学			【新カリキュラム】 音声学 【旧カリキュラム】 音声学
兼任	講師	池上 浩平 (36) <令和6年4月> 修士(保健医療学)	兼任	講師	池上 浩平 (36) <令和6年4月> 修士(保健医療学)	兼任	講師	池上 浩平 (37) <令和6年4月> 修士(保健医療学)
		音響学			音響学			【新カリキュラム】 音響学 【旧カリキュラム】 音響学
兼任	講師	山口 隆介 (47) <令和6年4月> 博士(文学)	兼任	講師	山口 隆介 (47) <令和6年4月> 博士(文学)	兼任	講師	山口 隆介 (48) <令和6年4月> 博士(文学)
		コミュニケーション論			コミュニケーション論			【新カリキュラム】 コミュニケーション論 【旧カリキュラム】 コミュニケーション論
兼任	講師	杉浦 由香里 (41) <令和6年4月>						
		教育学						
			兼任	講師	白銀 研吾 (42) <令和6年4月> 博士(教育学)	兼任	講師	白銀 研吾 (43) <令和6年4月> 博士(教育学)
					教育学			【新カリキュラム】 教育学 【旧カリキュラム】 教育学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	黒瀬 勉 (73) <令和6年4月> 文学修士	兼任	講師	黒瀬 勉 (73) <令和6年4月> 文学修士	兼任	講師	黒瀬 勉 (74) <令和6年4月> 文学修士
		倫理学入門			倫理学入門			【新カリキュラム】 倫理学入門 【旧カリキュラム】 倫理学入門
兼任	講師	李 艶 (60) <令和6年4月> 博士(心理学)	兼任	講師	李 艶 (60) <令和6年4月> 博士(心理学)	兼任	講師	李 艶 (61) <令和6年4月> 博士(心理学)
		心理学			心理学			【新カリキュラム】 心理学 【旧カリキュラム】 心理学
兼任	講師	藤原 信行 (49) <令和6年4月>						
		社会学						
			兼任	講師	富川 拓 (51) <令和6年4月> 修士(社会学)	兼任	講師	富川 拓 (52) <令和6年4月> 修士(社会学)
					社会学 ボランティア論			【新カリキュラム】 社会学 ボランティア論 【旧カリキュラム】 社会学 ボランティア論
兼任	講師	筒井 正 (68) <令和6年4月> 博士(文学)	兼任	講師	筒井 正 (68) <令和6年4月> 博士(文学)	兼任	講師	筒井 正 (69) <令和6年4月> 博士(文学)
		地域の歴史と伝統文化			地域の歴史と伝統文化			【新カリキュラム】 地域の歴史と伝統文化 【旧カリキュラム】 地域の歴史と伝統文化
兼任	講師	呉 凌非 (62) <令和6年4月> 博士(言語学)	兼任	講師	呉 凌非 (62) <令和6年4月> 博士(言語学)	兼任	講師	呉 凌非 (63) <令和6年4月> 博士(言語学)
		中国語			中国語			【新カリキュラム】 中国語 【旧カリキュラム】 中国語
兼任	講師	飯田 英晴 (73) <令和7年4月> 博士(医学)	兼任	講師	飯田 英晴 (71) <令和7年4月> 博士(医学)			
		精神医学 教育心理学			精神医学 教育心理学	兼任	講師	松原 耕平 (38) <令和7年4月> 博士(心理学)
								【新カリキュラム】 教育心理学 【旧カリキュラム】 教育心理学
						兼任	講師	吉川 征延 (45) <令和7年4月> 修士(社会学)
								【新カリキュラム】 精神医学 【旧カリキュラム】 精神医学
兼任	講師	吉田 忍 (54) <令和7年4月> 博士(医学)	兼任	講師	吉田 忍 (53) <令和7年4月> 博士(医学)			
		小児科学			小児科学			
						兼任	講師	多賀 崇 (63) <令和7年4月> 博士(医学)
								【新カリキュラム】 小児科学 【旧カリキュラム】 小児科学
兼任	講師	松田 美智子 (67) <令和7年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	松田 美智子 (66) <令和7年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	松田 美智子 (67) <令和7年4月> 修士(教育学)
		社会福祉学			社会福祉学			【新カリキュラム】 社会福祉学 【旧カリキュラム】 社会福祉学
兼任	講師	武富 純子 (57) <令和6年4月> 修士(社会学)						
		ボランティア論						



(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和6年度】

【担当教員の変更】  
(専任教員)  
種村純の担当する「リハビリテーション医学」の一部を兼任教員の山内正雄及び杉本久美子に変更。  
兼清健志の担当予定科目であった「バイオメカニクス入門」を兼任教員の佐藤隆彦に変更。  
(兼任教員)  
篠田恵一が退職したため、兼任教員から兼任教員に変更。  
分木ひとみに「学びの基盤」の一部を追加。  
里中綾子が退職したため「ウイメンズ・メンズヘルスケア論」の里中担当箇所をもう一人の兼任の山内正雄に追加。  
大西満が退職したため、兼任教員の寺井淳に変更。  
安部征哉に「学びの基盤」の一部を追加。  
(兼任教員)  
杉浦由香里の就任辞退に伴い、「教育学」を兼任教員の白銀研吾に変更。  
藤原隆行の就任辞退に伴い、「社会学」を兼任教員の富川拓に変更。  
武富純子の就任辞退に伴い、「ボランティア論」を兼任教員の富川拓に変更。  
後藤真吾の就任辞退に伴い、「教育支援論」を兼任教員の小西喜朗に変更。

【令和7年度】

【担当教員の変更等】  
(選任教員)  
「言語発達障害学Ⅰ」(新・旧カリキュラム)の担当を専門性を鑑み小島 麻木(准教授)から加藤 陽子(講師)に変更。  
「言語発達障害学Ⅱ」(新・旧カリキュラム)の担当を専門性を鑑み加藤 陽子(講師)から小島 麻木(准教授)に変更。  
(兼任教員)  
木岡 和美が担当予定であった「家族支援論」(旧カリキュラム)を杉本 久美子(兼任)に変更。  
(兼任教員)  
「言語聴覚診断学実習」(旧カリキュラム)について専門性の高い講義を実施するため、能登谷 晶子を担当に追加。  
飯田 英晴が退職のため「教育心理学」を松原 耕平(兼任)に、「精神医学」を吉川 征延(兼任)に変更。  
吉田 忍が退職のため「小児科学」を多賀 崇(兼任)に変更。  
篠田 恵一が退職のため「内科学」を白鳥 博之(兼任)に変更。

- (注)・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(A C教員審査)を受けてください。**原則としてA C教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ A C教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
  - ・ 不要な年度(令和6年度開設であれば令和5年度以前)の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	専任教員数のうち、 完成年度時における 設置基準上の必要教 授数	専任教員数のうち、 完成年度時における 設置基準上の必要実 務家教員数	専任教員数のうち、 完成年度時における 設置基準上の必要な 研究業績を有する実 務家教員数
7 名	4 名	3 名	2 名

(注) ・ 大学設置基準別表第一イ(2)及び第四十二条の六、専門職大学設置基準別表第一イ及び第三十六条、  
専門職短期大学設置基準別表第一イ及び第三十三条により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【専門職大学等】

設置時の計画						現在(報告時)の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
4	1	1	1	7	1	4	1	1	1	7	1
(4)	(1)	(1)	(1)	(7)	(1)						
専任教員数 (専)	専任教員数 (実専)	専任教員数 (実(研))	みなし専任教員数			専任教員数 (専)	専任教員数 (実専)	専任教員数 (実(研))	みなし専任教員数		
3	2	2	0			3	2	2	0		
(3)	(2)	(2)	(0)								
現在(報告時)の完成年度時の状況						現在(報告時)の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
4	1	1	1	7	1	4	1	1	1	7	1
[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]
専任教員数 (専)	専任教員数 (実専)	専任教員数 (実(研))	みなし専任教員数			専任教員数 (専)	専任教員数 (実専)	専任教員数 (実(研))	みなし専任教員数		
3	2	2	0			3	2	2	0		
[ 3 ]	[ 2 ]	[ 2 ]	[ 0 ]			[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ ]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在(報告時)の状況」には、報告年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。  
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、  
教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、  
「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、  
 [ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)  
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、  
 [ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)  
 ・ 「実専」は実務家教員、「実(研)」は研究能力を併せ有する実務家教員を計上してください。  
 なお、みなし専任教員(実み)がいる場合は、必要に応じて各項目の教員数に計上してください。  
 ・ 「みなし専任教員数」には、「実専」に計上している実務家教員数のうち、みなし専任教員の教員数を計上してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢(歳)	報告時(上記 (B))の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時(上記 (C))の教員 うち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	1 名	1 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、  
 及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている  
 教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、  
 「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{7}{7} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在(報告時)の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{1}{7} = \boxed{14.28} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{1}{1} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
		該当なし					
合計（D）				後任補充状況の集計（E）			
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注)・認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
  - 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
  - また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
		該当なし					
合計（F）				後任補充状況の集計（G）			
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注)・一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について、記入してください。
- 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
  - また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）+（F）				後任補充状況の集計（E）+（G）			
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D)+(F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{7} = 0\%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和6年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

0 人

- (注)・(3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
- ・令和7年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

(注)・ 定年により退職した全ての専任教員について、記入してください。

- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び ( ) 書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

(注)・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入し

## 6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
届 出 時 (令和6年)	・リハビリテーション学部作業療法学科の収容定員未充足の是正に努めること。  【届出】 遵守事項	令和6年度から入学定員を10名減としたが、入学定員は未充足であった(6)(7)	履行中  高校生の認知度をさらに高めるため、WEBやSNSを通じた高校生視点での広報を強化する。オープンキャンパス参加者の入学率を高めるために、学生スタッフの動員、体験型イベントの実施など、内容の見直しを図る。また、滋賀県内の高校との高大連携を強化しつつ、県外の近接地域の高校へも広報範囲を拡げていく。さらに、小中学生など早い段階での職業理解が欠かせないことから、滋賀県や作業療法士会とも連携した広報活動を展開する。(6)(7)
届 出 時 (令和6年)	・二以上の校地において教育を行うことから、学生及び教員の教育研究等に支障のないよう留意すること。また、学生の課外活動等にも配慮すること。  【届出】 遵守事項	2キャンパス間でのバスの運行を増やし、教員、学生の移動に不都合が生じないようにしている。課外活動も同様に、通常運行とは別にバスを運行する配慮をしている。(6)	履行済
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和6年度)	教育内容の充実等を通じ、収容定員未充足の改善に努めること。(リハビリテーション学部言語聴覚療法学科)  【A C】 指摘事項 (改善)	今年度は、職業理解を深めるための専用リーフレットの配布や本学認知を高めるための様々な広報媒体を通じた広報の他、オープンキャンパスや進路ガイダンス等を通じて高校生に直接訴求してきたことが入学増につながったものの、入学定員充足率は60%にとどまる結果となっており、学生募集戦略のさらなる取組が必要であると考える。(6)	履行中  今後は、高校生の認知度をさらに高めるためのWEBやSNSを通じた広報を強化するとともに、オープンキャンパス参加者の入学率を高めるために学生スタッフの動員や体験型イベントの実施など、事業の内容の見直しを図る。また、滋賀県内の高等学校との高大連携を強化しつつ、県外近接地域高等学校へも広報を行うなど、より多くの学生を募集するための取組を進めていく。さらに、若い年代への職業理解を広げるため、言語聴覚士会や関係自治体等と連携して小中学生に対する広報活動も展開してまいりたい。(7)

(注)・「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。

**【令和6年度報告書から記載内容に変更がある場合】**

令和6年度報告書の記載内容を転記し文末に「(6)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(7)」と記載してください。

**【令和6年度報告書から記載内容に変更がない場合】**

令和6年度報告書の記載内容を転記し文末に「(6)(7)」と記載してください。

**【令和7年度から新たに調査対象となった学科等又は令和6年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】**

「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(7)」と記載してください。

- ・「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
- ・「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

## 7 その他全般的事項

<リハビリテーション学部 言語聴覚療法学科>

### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
1～6に記載した変更事項以外の設置時の計画の変更はない。	

(注)・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>びわこリハビリテーション専門職大学FD・SD推進委員会を設置している。以下に規程を記載する。</p> <p>(目的・設置)</p> <p>第1条 びわこリハビリテーション専門職大学（以下「本学」という。）の教育理念及び学部、学科の教育目標に基づく教育活動の質向上の支援を目的とし、びわこリハビリテーション専門職大学組織規程第9条第1項に基づき、びわこリハビリテーション専門職大学FD・SD推進委員会（以下「委員会」という。）を置く。</p> <p>(任務)</p> <p>第2条 委員会は、各教員の教育力を高め教育の質の向上を図ること、また教職員を対象とする大学運営及び教育・学生支援活動における能力と資質の向上を図ることを目的とし、次の各号に掲げる事項を任務とする。</p> <p>(1) FD・SDの基本方針に関する事項</p> <p>(2) FD・SD研修プログラム等の企画・立案及び実施に関する事項</p> <p>(3) 授業評価アンケート、その他授業の改善に関する事項</p> <p>(4) FD・SDの啓発活動に関する事項</p> <p>(5) その他FD・SD活動推進に関する事項</p> <p>(委員会の構成)</p> <p>第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって構成する。</p> <p>(1) 学部長</p> <p>(2) 各学科から選出された教員 各1名</p> <p>(3) 教務委員会委員長</p> <p>(4) 事務センター長</p> <p>(5) 学生支援グループ長</p> <p>(6) 学長が指名する者</p> <p>(委員長等)</p> <p>第4条 委員会には委員長を置き、学長がこれを指名する。</p> <p>2 委員会は、必要に応じ、委員長が委員の中から指名する副委員長を置くことができる。</p> <p>3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に支障があるときはこれを代行する。</p> <p>(委員会の運営)</p> <p>第5条 委員会は、必要に応じて委員長の招集により開催する。</p> <p>2 委員会は、委員総数の2分の1以上の出席をもって成立する。</p> <p>3 委員会は、必要に応じて委員以外の者に出席を求め、意見を聞くことができる。</p>
--

(所管)  
第6条 この委員会の事務の所管は、事務センター学生支援グループとする。

(改廃)  
第7条 この規程の改廃は、大学運営会議の議を経て、学長が行う。

附 則  
この規程は、2020年4月1日から施行する。

附 則  
この規程は、2022年4月1日から施行する。

附 則  
この規程は、2024年4月1日から施行する。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

5月21日開催（教員4名、事務2名）

6月 4日開催（教員5名、事務2名）

10月 7日開催（教員6名、事務1名）

c 委員会の審議事項等

- ・授業評価アンケートの実施と回答に対するフィードバックについて
- ・2024年度のFDSD研修実施日時と内容について
- ・FDSD研修実施後の振り返り

② 実施状況

a 実施内容

- ・科研費採択に向けて
- ・アカデミックハラスメント防止について
- ・収容定員充足率の重要性について～高等教育政策の観点から～
- ・教学IRについて
- ・研究倫理の基本的事項と不正行為について

b 実施方法

オンライン開催（1部対面によるワークショップ開催）

c 開催状況（教員の参加状況含む）

6月13日（教員27名 事務5名）

8月23日（教員31名 事務8名）

9月13日（教員33名 事務10名）

9月20日（学校法人全体開催のため出席者数不明）

3月12日（教員31名 事務5名）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

研修を通じて、教員のハラスメント防止に対する意識向上を図るとともに、教学IRを用いた授業改善や学修成果の可視化に努めている。また、収容定員充足率の向上が大学の持続的発展に不可欠であることを認識し、教育内容や学修支援の充実を通じて学生満足度の向上に取り組んでいる。今後も全学的に教学マネジメントの質向上を推進していく。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

前期、後期のそれぞれ終了時に実施。

b 教員や学生への公開状況、方法等

アンケート結果については、各教員はLMS上で自身の担当科目については閲覧することができる。

学生への公開については現在検討中である。

(注)・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

設置済み。昨年度から委員の変更はない。  
別添として委員名簿を添付する。

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

第1回 2024年9月26日  
第2回 2025年3月18日

c 委員会の審議事項等

第1回

- ①新規委員の紹介
- ②前期教育活動実施状況報告
- ③2025年度 カリキュラム改正内容の説明
- ④2024年度 地域連携事業について報告
- ⑤学生募集状況報告

第2回

- ①現行の教育課程について審議
- ②後期教育活動実施状況報告
- ③国家試験受験状況及び就職状況報告
- ④2025年度 入学者数見込報告
- ⑤分野別認証評価 受審結果報告

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

地域の生活者視点でのリハビリテーションのあり方や疾病予防、また、集団を見ることの難しさが現場から上がるとの意見があり、2025年度からの新カリキュラム内容を精査した結果、地域におけるリハビリテーションの実態の把と実践が学べる科目も網羅されていることが確認された。

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

2024年度に改正した教育課程において、教育課程連携協議会において審議された内容を反映させている。

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

教育課程連携協議会において意見のあった「データサイエンス」「ICT活用論」「公衆衛生学」が教育課程に反映されている。

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見  
言語聴覚療法学科の開設後、予定通り教員が着任し、新キャンパスの開設等、施設に関しても順調に整備が進んでいる。  
開設初年度の入学者数は7名と入学定員：20名の50%に満たない学生数となり、2年目の今年は12名と増加したものの、依然として定員充足率が低い状況にあることから、学生募集についてさらに戦略的な取組を進めることが必要であると考えます。  
2025年5月1日時点で本学科に在籍している17名のうち15名が滋賀県内出身であり、人材養成の目的であった「生まれ育った地で地域住民のために貢献できる人材を養成すること」を達成するため、教育活動を遂行する。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期  
・令和7年12月末 公表（予定）

b 公表方法  
・大学ホームページ上に公開予定（令和7年12月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画  
(専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。)  
・令和8年に機関別評価機関（公益財団法人 日本高等教育評価機構）を受審予定である。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和7年度）

a 公表予定の有無 [ 有 ]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [ 公表後2～3ヶ月以内 ]

c 公表方法 [ ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ( ) ]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 [ ]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト上に公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。